

# 石川県羽咋市における 中学校武道必修化に向けた取組

羽咋市教育委員会

羽咋市は、昨年度、文部科学省より「平成23年度中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」の指定を受け、学習指導要領の趣旨を踏まえた武道の指導について羽咋市立羽咋中学校で実践研究を積み重ねてきました。

羽咋教育ビジョンに示された「3あいII学びあい、鍛えあい、育ちあい」を踏まえ、地域指導者と体育担当教員の連携の在り方について模索した、その取組の一端を紹介します。



山相撲場で神事相撲が毎年行われている。

## 1 はじめに

石川県羽咋市は、人口約2万4000人。能登半島の基部西側に位置し、ほぼ中央に広がる邑知潟低地の平野部を囲んで海手山手に人口が集散している。古くからの

弓道・相撲の盛んな地域で、競技団体も組織されている。相撲については、日本三辻と言われる唐戸

## 2

### 羽咋市立羽咋中学校の研究実践

(1) 学校・地域の特徴及び実態  
市内の学校は、中学校が2校、

(2) 小学校は6校あるが、少子化の影響を受けており、年々児童生徒数



千里浜なぎさドライブウェイ

学校規模	1年	2年	3年	特別支援学級	計
学級数	5	4	5	3	17
生徒数	男	85	73	82 (2)	240
	女	86	75	81 (1)	242
計	171	148	163	(3)	482



地域連携指導者推進委員会

### (2) 学校の概要

#### (3) 研究テーマ等

「活力に満ちた武道（柔道）授業の創造」地域指導者と保健体育担当教員の連携の在り方

#### ① 研究テーマ設定のねらい

平成24年度の新学習指導要領の武道必修化完全実施に向け、22年度より、新たに体育の授業を1年生から男女共修とし、柔道の授業を行っている。23年度は、「体力」「心力」の育成を目指し、生徒一人一人が意欲的に取り組める柔道

の授業の在り方について、地域の指導者と連携しながら指導法や指導計画の見直しを図り、他校の柔道指導のモデルとなるように取り組むたいと考え、本テーマを設定した。

#### ② 取組体制

校内に地域連携指導者推進委員会を設置し、新学習指導要領の趣旨を踏まえて円滑な柔道の授業が実施できるように研修を進めていった。

#### 【委員】

大学の先生、地域の協会代表、地域指導者、PTA代表、県教育

領域：武道 領域内容：柔道 (H23)

	1年	2年	3年	計	
配当時間	12	12	12	36	
地域指導者	2		0	2	
生徒数	男	85	73	82	240
	女	86	75	0	161

委員会、市教育委員会、保健体育科教員、本校職員

③ カリキュラムについて  
新学習指導要領の完全実施に向けて、従来の学習内容や単元計画、評価規準の見直しが必要であった。

#### (4) 研究の実践

##### ① 年間指導計画の見直し

毎年、年間指導計画の見直しを行ってきたが、柔道の授業については11月から12月に実施してきた。寒い時期でもあり、足は冷たく受け身は余計に痛く感じ、消極的になりがちであった。23年度か

が減少している。

本校は羽咋市の海側、千里浜海岸の近くに位置し、生徒は4つの小学校から集まっている。全校生徒482名、1年生5クラス、2年生4クラス、3年生5クラスからなる中規模校である。市街地、農村・漁村地区、住宅地などからなり、純朴な生徒が多い。武道の部活動では、柔道・剣道・弓道部がある。相撲部も大会のために臨時に活動し、参加している。

ら実施期間を早め、10月から各学年12時間を実施し、3年間行うものとした(別表参照)。

②学習内容と評価規準の見直し

従来行ってきた学習内容を、新学習指導要領に示されている内容に照らして見直しを行った。新学習指導要領を基に、「受け身の学習の仕方を対人技能と一体的に扱う」「抑え込みの条件の提示」など保健体育科教員で見直しをかけた、指導主事や大学の先生、地域指導者に指導助言をいただき、評価規準等を作成した。

③指導力の向上

大学の先生2名を招聘し、指導者講習会を開催。指導者講習会では、柔道の歴史や特性、考え方などの説明後、本校柔道部員を生徒に見立てて実技指導を行った。また、柔道授業における指導資料や指導方法などについて、県内の先進的な中学校の指導者と情報交換を行ったり、県が主催する武道実技研修会へ参加し、指導力向上に努めた。さらに、保健体育科教員



実技指導で指導力の向上

で、柔道の授業の指導法について教科研修会や授業参観を実施し、指導改善と指導力向上に努めた。

④授業事例

【2年生の取組より】

2年生は22年度に柔道授業を行っているが、柔道に対するマイナスイメージを持っている生徒が多いため、22年度は、11月後半から寒い中で授業であったため、痛いイメージも大きかったように思われる。23年度は、地域指導者に、柔道は基本動作ができていれば安

全だということを実際にデモンストラクションしていただき、受け身の重要性について再認識させた。内容については1年次の学習内容を基に、新たな技能の習得に努めた。

ア 既習技能の復習

1年次に学習した技能も、1年経つと帯の結び方や、基本動作・受け身等を忘れていた生徒が多かったため復習と確認を行った。

イ 投げ技と受け身

投げ技の体さばき・崩しと関連させ、一連の動きの中で受け身を取ることの重要性を理解させ、投げ技、受け身に取り組んだ。

ウ 視聴覚機器の使用

新しい技の説明やポイントを、DVDを使用し、繰り返し学習した。地域指導者の先生が来校できない日は、特に有効であった。

エ 投げ技、固め技の学習

投げ技の学習については、約束練習、自由練習と進め、まずは持っている力で攻防を楽しみ、新たな技能を習得し、更に攻防を展開



DVDで技を学ぶ



投げ技を磨く

### 3 研究の成果

(1)生徒の変容

を行った。グループ内で役割分担や学習の「学び合い」を行い、お互いに技能を高め合うことができ

「生徒一人一人が意欲を持って取り組める柔道の授業について」

○アンケート結果から柔道に対して授業前と授業後では、マイナスイメージが減少に転じている。

○先進校の取組から、足の動き方を示したシートの活用は理解しやすく、生徒自らが意欲的に学習する姿が見られた。

○地域の指導者を招聘した指導によって、生徒の興味関心が高まり、技能についてもよりよく理解できた様子だった。

○受け身の指導については、単調な受け身学習ではなく、投げ技の取りと受けを意識させ、崩し・体さばきと関連させ一連の動

きで学習させたことで意欲的に取り組む姿が見られた。

(2)指導者の変容

「保健体育科教員の柔道指導力の向上について」

○柔道指導者研修会への参加、大学の先生からの助言、日々の地域指導者と連携した授業展開により技能習得や効果的な授業を行う上でのポイントや知識を構築できた。

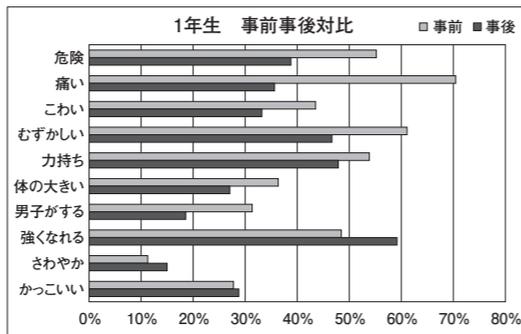
○本校は各学年複数のクラスがあるため、地域指導者の指導は1、2年各一クラスを指導対象とした。その指導を参考に、他のクラスで本校教員が指導実践することで指導力向上の取り組みができた。

○指導主事を要請し、校内の保健

体育部会における研修会の充実を図り、授業改善や新学習指導要領の要点についての確認、更には単元計画や評価規準の見直しができた。



地域指導者によるポイント指導



○生徒の事後のアンケート結果や、感想の中に「できるようなって嬉しい」「楽しかった」「少しは礼儀正しくなったと思う」などが評価として表れ、指導者の自信につながった。

### 4 課題と今後の展望

地域指導者の選定については、今回地域の柔道協会へ依頼した。柔道協会からは、青少年に対する

指導経験があり学校の授業時間に合わせて時間の融通がとれそうな指導者を紹介していただいた。指

導者は民間企業と団体職員の2名で、それぞれの職場を訪問し、事業への理解と職員の派遣をお願いした。しかし、学校の希望する時間すべてに対応することは難しく、調整しながら事業を行った。仕事の合間に指導に来ていただく関係もあり、事前・事後の打合せは短時間となったが、指導を行う上で貴重な時間となった。

### 5 おわりに

今夏のロンドン五輪では様々な競技で熱戦が展開され、日本選手の活躍に心躍った。中でも女子柔道57kg級で金メダルを獲得した地元石川県出身の松本薫選手の戦いぶりには、勇気と感動をもらった。試合前に見せる気迫のこもった表情、全身にみなぎる闘志は、武道家としての魂そのものであり、感動を覚えた。子どもたちにとって、柔道への憧れがさらに膨らむ貴重な機会だったと実感している。

一つの方策として、退職教員の柔道指導者を地域指導者として活用する方法が考えられるが、その人数も少ないのが現状である。このことについては、柔道のみならず、武道全体に言えると推測する。地域指導者の発掘も必要であるが、保健体育科教員が日々研鑽し指導力を向上させ、自信を持つ

別表 種目(柔道 2年生) 単元指導計画

ねらい	(1)柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁止技を用いないなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。 (2)課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 (3)柔道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開できるようにする。 (4)柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解できるようにする。												
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
課題	オリエンテーション 既習学習の確認	相手の動きに応じて技をかける	上四方固めを身に付ける	投げ技・刈り系の技を身に付ける	得意技をつくる			簡易な試合を楽しむ					
授業展開	①整列・挨拶 ②準備体操・補強運動 ③受け身(体さばきと関連させて) ④固め技(自由練習) ⑤本時の課題・活動の確認												
0	①柔道の歴史や特性の確認 ②学習のねらいと授業の進め方 ③既習学習の確認・基本動作・固め技												
15	めあて① 前後、横の動きに応じて技をかける 投げ技 支え系 ・膝車 ・支え釣り込み足 ・体落とし ・大腰	めあて② 新たな技を身に付ける 固め技 ・上四方固め				めあて③ 自分の得意技をつくろう ・支え系 ・まわし系 ・刈り系				めあて④ 簡易試合 ・既習した、投げ技 ・固め技を使って攻防を楽しむ			
30	約束練習・自由練習 (今まで既習した技で攻防を楽しむ)				約束練習 受け身も関連して				自由練習 受け身も関連して				
45	約束練習 受け身も関連して				自由練習 受け身も関連して				・簡易な審判方法を理解する				
50	約束練習 受け身も関連して				自由練習 受け身も関連して				・まとめ(ふりかえり)				
	①本時のまとめ ②整理体操 ③整列・挨拶 ④柔道衣片づけ												

# 日本武道館の最新刊



公益財団法人講道館道場指導部課長  
**向井幹博**  
(むかい みきひろ) 著

# 役に立つ 少年柔道指導法

DVD付き

役に立つ 少年柔道指導法

向井 幹博

A5判並製・DVD付・400頁・2520円

収録時間170分を超える  
解説DVD付属!

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

〈目次〉

第1部 解説編	第9章 少年柔道の未来のために
第一章 少年柔道は柔道指導の原点	第二章 実技編
第二章 基本動作の指導	第一章 礼法の指導
第三章 技の指導	第二章 受け身の指導
第四章 教育の中の柔道	第三章 基本動作の指導
第五章 指導の工夫	第四章 トレーニング法の指導
第六章 少年規定の変遷と問題点	第五章 柔道の練習法
第七章 柔道の安全指導	第六章 投げ技の指導
第八章 東日本大震災への講道館の対応	第七章 固技の指導